

■今月の特選句

2012年5月号

声はまだ誰も知らずや山笑ふ

高田敏男

山が声たてて笑ったら、賑やかを通り越して騒々しいだろうよ。桃のふふふ、桜のほほほ、まだ眠ったままの山の鼾も混じる。

人寄せのさくらなんですさくら貝

伊藤浩睦

芝居小屋で、演出をサポートして声をかける役を「さくら」と呼び、後に露天商の偽客の呼び名になった。さくら貝の「さくら」に、二重の意味。

上がるのは物価・血圧・揚げひばり

田村米生

上がらないのは、五十肩の腕、風采、春寒の気温…、まだある。上がらないのは、北朝鮮のミサイル、内閣支持率…ああ、これは下がるに分類。

つくしは筆アスパラガスは万年筆

日根野聖子

確かに形からして「ぴったり」ですね。白菜は前頭葉、にんにくは団子鼻。ゲジゲジは眉、椎茸は木の耳、頭髮はツバメの巣。

一番になれずに荒れた春嵐

石川節子

春一番に先を越された春の風が、拗ねて大暴れをしたのが、春嵐となった。四月初めの強風は、一番になれなかったことが理由だったとは。

佐保姫のまずは花屋に立ち寄り

高橋素子

今年、春がなかなかやって来なかったのは、佐保姫が寄り道していたから、という思い込みの句である。しかし、事實は、大朝寝と思うが…。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- 小鼓を持っていたらし古雛
・・・手持ち無沙汰に口をぼかんと
村上美和
- 鞆を漕いで鷹女となってみる
・・・ぶらんこ降りればただの俳人
高橋 都
- 大江戸も小江戸も桜まみれかな
・・・千鳥が淵が雑踏となり
飛田正勝
- 入社式末は社長かフリーター
・・・二極分化のせめてまん中
西をさむ
- ハンカチと水着小さきを競ひ合ひ
・・・結局水着に軍配あがる
ひがし愛
- 春コート大栄転と言ふ僻地
・・・左遷でいいから都会へやつて
壽命秀次
- 蛤の大黒柱貝柱
・・・わが家の大黒柱の好物
松尾軍治
- 早送り車窓の春の雪景色
・・・動くお花見吊草たのみ
山本 賜
- 裳裾なぶる風を気にする糸桜
・・・箱入り娘の糸桜らし
有吉堅二
- 痴漢レイプ何でもありの猫の恋
・・・雌猫からの訴訟も辞さず
池田亮二

出世せぬ同士の気炎花筵

・・・部長になれぬ課長なぐさめ

清水吞舟

口車とばして軽し万愚節

・・・飛ばすならよし乗ってはならん

薦 恵

日本の大人も休む子供の日

・・・子どもは塾へ行かねばならぬ

永島董玉

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|------------------|-------|
| | 無礼講乗って臍嚙む四月馬鹿 | 青木輝子 |
| 【佳作】 | 受験生仏頂面の不精髭 | 青木輝子 |
| | 卒業子冷た過ぎます娑婆の風 | 青木輝子 |
| 【佳作】 | 孕み猫腹を擦りすり往還へ | 青山桂一 |
| | 野焼き終ふ斑模様の田となりて | 青山桂一 |
| | 鋸葉には毛など絡まる水菜にて | 青山桂一 |
| 【佳作】 | 降つても解けても積雪の難儀かな | 秋月裕子 |
| | 震災忌山は笑はず涙雨 | 秋月裕子 |
| | 花だより津波に山河痛はしや | 秋月裕子 |
| | じやあ又と軽く目配せ卒業す | 麻生やよひ |
| 【佳作】 | 冷鬘酒といへど過ぎれば及ばざる | 麻生やよひ |
| | 春やつと補助輪付きの自転車で | 麻生やよひ |
| | イケメンが眩しく見えてくる新樹 | 足立淑子 |
| 【佳作】 | 黄泉路までひょこひょこ歩く羽抜鳥 | 足立淑子 |
| | 翡翠に翻弄されている男 | 足立淑子 |
| 【佳作】 | 筥のがまんし切れずあたま出し | 有富洋二 |
| | UFOの釣り糸たれる鯉のぼり | 有富洋二 |
| | 葉桜の提灯だれも灯さざり | 有富洋二 |
| 【佳作】 | エイプリルフールでもよし君ならば | 有吉堅二 |
| | 春眠をむさぼつてみる「眠り猫」 | 有吉堅二 |
| 【佳作】 | ちんぼ出して携帯舐めて初節句 | 栗倉健二 |
| | 柱の傷は節句時の猫の丈 | 栗倉健二 |
| | 菖蒲湯にアボカド浮かべ故郷を聞く | 栗倉健二 |
| 【佳作】 | 桜散り予備校の門くぐりたり | 安藤淑子 |
| | 袴穿きネイルアートの卒業生 | 安藤淑子 |
| | 背丈だけは親を抜いたり新入生 | 安藤淑子 |
| | 花過ぎの我家に目覚め事もなし | 飯塚ひろし |
| 【佳作】 | 鏝広く飛び立ちさうな春帽子 | 飯塚ひろし |
| | 桜の夜火照る枕を裏返し | 飯塚ひろし |

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 句作の出口見つけに青き踏む
永き日の瀬戸内海から太平よ
高速を降りてしんどや白椿 | 井口夏子
井口夏子
井口夏子 |
| | アラフォーも番茶の出花かミニ姿 | 池田亮二 |
| | かつて子に今はあなたに雛あられ
花筏首を洗ひし首と聞き | 板倉肱泉
板倉肱泉 |
| 【佳作】 | 春眠や棒となり落つボールペン | 板倉肱泉 |
| | 十二単名前負けしてゐるかとも
宇宙後の名の怪獣と武具飾る | 伊地知寛
伊地知寛 |
| 【佳作】 | 初めての言葉は宇宙後こどもの日 | 伊地知寛 |
| | 海猫かいや陸の猫孕みある | 伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 春浪の浜に海月の溺死体 | 伊藤浩睦 |
| | 遅れ来てまずは一献花の昼
マスクして花粉症かと思ふ
体型を変へぬ暮らしを更衣 | 稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】 | つくしんぼ四人家族で並びおり
風弱く春一番になりそこなね | 井野ひろみ
井野ひろみ |
| | かかり付け女医ならざるはなし水温む
唐突にガルボに出会ふ春の街 | 宇井偉郎
宇井偉郎 |
| 【佳作】 | どんたくの前の日までが出張日 | 宇井偉郎 |
| 【佳作】 | 糞とは狸の所為と思ひしか
次次と弁当渡る花名所
亀鳴かば石も鳴かねば不公平 | 宇佐美徹郎
宇佐美徹郎
宇佐美徹郎 |
| | 地球儀の赤道渡る更衣
若き日の色の変はりし麦藁帽
蛸壺の恋しと陸に上る蛸 | 氏家頼一
氏家頼一
氏家頼一 |
| 【佳作】 | 余生とはこんなものかと大朝寝
万愚節話し上手は母ゆづり
御賓頭撫でて忘るる些事一つ | 越前春生
越前春生
越前春生 |
| 【佳作】 | 山笑ふファッション一途の山ガール
何故か今年ためらふ牡丹の芽 | 奥脇弘久
奥脇弘久 |

	はな祭腕白盛りの悟り顔	奥脇弘久
	春の鹿威厳の角を伐られけり 天井のモンロー拝む遍路寺	笠 政人 笠 政人
【佳作】	春めくと公園の鳩キス交す	笠 政人
	落椿どれも私を見つめをり	加藤澄子
【佳作】	声高にマニュアル語じ新社員 棕の実の音のカラカラ宝物	加藤澄子 加藤澄子
	梅林の咲き揃ひたる万感あり 絵馬掛の恋のその後よ春深し	加藤 賢 加藤 賢
【佳作】	子犬の名上司と同じ風光る	加藤 賢
	隣から牡丹餅こなくなり五年 もつこりとほつこりふころぶヒヤシンス	川島智子 川島智子
【佳作】	春雷や初恋の夢打ち破る	川島智子
	固定資産税わずかな額の山笑う マラソンの混み合ふ足やシクラメン コーラスの頭揺らしてチューリップ	久我正明 久我正明 久我正明
【佳作】	固定資産税わずかな額の山笑う マラソンの混み合ふ足やシクラメン コーラスの頭揺らしてチューリップ	久我正明 久我正明 久我正明
	新作の無声映画や黄砂来る 少子化や子供も雛も高級化	工藤泰子 工藤泰子
【佳作】	猫の恋床下巡り奈落へと	工藤泰子
	一寸法師と渡ってみたい雪解川 一度なら真似してみたい恋の猫	黒田忠一 黒田忠一
【佳作】	一寸法師と渡ってみたい雪解川 一度なら真似してみたい恋の猫	黒田忠一 黒田忠一
	臃かな新前置詞のそうですね 株下がり野球も負けて三寒無温 漢方薬服むよ目刺の腸を	小杉 隆 小杉 隆 小杉 隆
【佳作】	臃かな新前置詞のそうですね 株下がり野球も負けて三寒無温 漢方薬服むよ目刺の腸を	小杉 隆 小杉 隆 小杉 隆
	涅槃会の猫の代返ばれてをり 踊り子を離れぬ蝶にじれにけり	小林英昭 小林英昭
【佳作】	涅槃会の猫の代返ばれてをり 踊り子を離れぬ蝶にじれにけり 新社員樹下に席とる初仕事	小林英昭 小林英昭
	三世代丸めて回す洗濯機 ジバングに裏表とは腹が立つ	齋藤八兵衛 齋藤八兵衛
【佳作】	三世代丸めて回す洗濯機 ジバングに裏表とは腹が立つ ときめいて吉永小百合見る炬燵	齋藤八兵衛 齋藤八兵衛
【佳作】	メールして電話で確認老の春	酒井鹿洋

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| | ジーパンの破れ注意す更衣
海水着剥ぎ取る程にファッション | 酒井鹿洋
酒井鹿洋 |
| | 黴臭きチョコで前九疑現区議と
逝く気なく春生鱈腹ふぐと汁 | 佐藤古城
佐藤古城
佐藤古城 |
| 【佳作】 | 列島を反らせひろしの白い息 | |
| | 来春は退職をしてただの人
突風でハウスはがされ苗震う | 佐藤義子
佐藤義子
佐藤義子 |
| 【佳作】 | 歩いてる家の人にも御慶かな | |
| | 春一番黄色の風の吹き過ぐる
涅槃会の花供御餅は五色なり | 佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子 |
| 【佳作】 | 地獄絵の絵解も聴けり涅槃寺 | |
| | 底意地を張って抜けないキリタンポ
降る雪に江戸の住人てんてこ舞
合婚の見合どころかこの寒さ | 柴田真一
柴田真一
柴田真一 |
| 【佳作】 | 朝寝して時代遅れをゆるく生く
老いたりと思へど言はず青き踏む | 清水吞舟
清水吞舟 |
| | 朝市の春を選んでつまみ食ひ
花札に負けて鶯啼きにけり
花咲いて言はぬが花と思ひけり | 下嶋四万歩
下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| 【佳作】 | 卒業歌先づ悪太郎涙ぐみ
啓蟄や脳ドック正常に老化 | 壽命秀次
壽命秀次 |
| | たじたじの振り込め詐欺や四月馬鹿
病室の扉無施錠春愁ふ
ときとして嘘を方便桜咲く | 白井道義
白井道義
白井道義 |
| | 嘘を上手に使い分けながらタンポポでいる
同じ事を考えている魚屋のヒラメ | 鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝 |
| 【佳作】 | 黄だけを押し通すタンポポが偉い | |
| | 春の日々おしゃれな犬は服を着る
ベランダの洗たくものが春の雨
冬帽子見かけるところ道路沿い | 鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也 |
| 【佳作】 | 見栄張りや十二単の草生やし | 高田敏男 |

- | | | |
|------|---|----------------------|
| | 悪童もゲーム狂いも知恵詣 | 高田敏男 |
| | 春の風邪ガラガラ声で長電話
目覚ましも携帯も無視大朝寝 | 高橋マキコ
高橋マキコ |
| 【佳作】 | 一粒の命の青さイヌフグリ | 高橋マキコ |
| 【佳作】 | 一等地ちゃんと知ってるいぬふぐり
門の先は春かや伝法院 | 高橋 都
高橋 都 |
| | 風船の憂鬱むりやり膨らんで | 高橋素子 |
| 【佳作】 | 啓蟄や男木も腰巻脱がさるる | 高橋素子 |
| 【佳作】 | 滑稽の記憶術のわざやうらら
春星や小説書くもありぬべし
春の日の巖島神社見まほし | 田中 勇
田中 勇
田中 勇 |
| 【佳作】 | 文法はちんぷんかんぷん山笑ふ
根の国へ渡す儀式や春の鉦
香炉峰雪を問はれて無粋なる | 田中早苗
田中早苗
田中早苗 |
| 【佳作】 | ビニル傘死体遺棄され春嵐
花冷えの敷物尻にひんやりと
居酒屋で説得さるる新社員 | 種谷良二
種谷良二
種谷良二 |
| 【佳作】 | 六年間着れさうな服入学児
下がるのは株価・月給・藤の房 | 田村米生
田村米生 |
| 【佳作】 | 人生は一閃そのもの春の雷
ストレスの痕跡ありぬ浅利貝 | 蔦 恵
蔦 恵 |
| | 肩書をはずし裸足で春の土
古傷の足裏で確かむ春の土 | 土居忠行
土居忠行 |
| 【佳作】 | 道草を覚えて草笛上手くなる | 土居忠行 |
| | 末つ子の末のひとりに雛飾る | 飛田正勝 |
| 【佳作】 | 三日目も桜訪ねて仕舞ひけり | 飛田正勝 |
| 【佳作】 | 鯉のぼり骨も抜かれて腑抜けかな
たけのこと最早呼べなき丈伸びて | 永島董玉
永島董玉 |
| | 梅檀の芳しからず新入生 | 西をさむ |
| 【佳作】 | 虫出しの雷に泣き虫べそをかく | 西をさむ |

- したたかにくすぐられゐる子ねこかな
 税務署出で亀鳴く畦をとぼとぼと
 【佳作】 春は遅々ノブにまだゐる静電気
 原田 曄
 原田 曄
 原田 曄
- 【佳作】 信号機みたい食卓の夏野菜
 仲良くて引っ張りだこの蛸の肢
 ひがし愛
 ひがし愛
- 【佳作】 如月の望月なのだが花がまだ
 弥生果つ今着る服が又も無い
 チューリップ理想家庭は赤白黄
 彦阪義久
 彦阪義久
 彦阪義久
- 鯉のぼり我にも浮腫の到来す
 【佳作】 神輿揉み神も眩暈をして在す
 かげろふや墓地ゆく人の足うばひ
 久松久子
 久松久子
 久松久子
- 部屋ちゆうにミモザの花の黄を灯す
 【佳作】 地球ごとふつ飛びさうな春嵐
 日根野聖子
 日根野聖子
- 錠剤に義母の朝寝を覗きみて
 【佳作】 骨董の目利き不信や四月馬鹿
 進学日帰途のバイトの一日目
 藤岡蒼樹
 藤岡蒼樹
 藤岡蒼樹
- 花の下のんべんだらり長く居る
 万愚節下手な冗談言つてみる
 【佳作】 四月馬鹿単なる馬鹿と違ふ馬鹿
 藤森荘吉
 藤森荘吉
 藤森荘吉
- 春光や天井のしみ躍らせる
 【佳作】 雛引退五月人形の登場に
 不揃いも楽しみのうち蜆汁
 藤原セツ子
 藤原セツ子
 藤原セツ子
- 【佳作】 出たけれど次の入口無き四月
 ママはしやぎパパ小さくなる入学式
 虹のごと入学式の式辞消ゆ
 前 九疑
 前 九疑
 前 九疑
- みちのくをへの字になりて鳥帰る
 【佳作】 足裏にふれてくすぐる涅槃像
 松尾軍治
 松尾軍治
- 春一番ひとつき遅る無粋かな
 【佳作】 黄砂降るまほろば攻むる布告ごと
 球春やつい肩入れす公立校
 丸山紘一
 丸山紘一
 丸山紘一

- 【佳作】 雑草となる日を前に草萌ゆる 三塚不二
 朧月眼をこすってもこすっても 三塚不二
 白壁に溶ける春宵の白猫よ 三塚不二
- 【佳作】 人見知りげに一人咲く山桜 三橋百笑
 ひばり鳴く声にまぶされ鉄塔工事 三橋百笑
 落選にザクザクザクザクザクザク春きやべつ 三橋百笑
- 【佳作】 一步づつ試歩の杖先芽ぶく芝 宮森 輝
 春疾風押し戻さるる五尺の身 宮森 輝
 押し戴く卒業証書固く巻く 宮森 輝
- 【佳作】 春の野や画板川向く山を向く 村上美和
 納め皺なだめて飾るお雛さま 村上美和
- 【佳作】 笑の字がわらっているねつくしんぼ 百千草
 アレソレで成り立つ会話春の風 百千草
 グッバイはハローの一步初桜 百千草
- 【佳作】 藤房に遊ばれてみる池の水 森岡香代子
 雨含む風に呼ばれる花筏 森岡香代子
 春嵐騒ぎ立てたる風見鶏 森岡香代子
- 【佳作】 春むかし裸一貫そのまんま 森 要
 春うらら猫ばば仲良く日向ぼこ 森 要
 早生まれ馬鹿がつきそうな誕生日 森 要
- 【佳作】 春疾風プラットホームをすり抜ける 八木 健
 まずは啄みバイキングの春野菜 八木 健
 永き日の計画立案してする 八木 健
- 【佳作】 陣取りや新入社員に花の冷え 八洲忙閑
 花見より暖を求めて疲れけり 八洲忙閑
 女子アナの高笑ひなれ四月馬鹿 八洲忙閑
- 【佳作】 煽られて逆立ちをする鯉幟 柳 紅生
 花嫁の約束反故に一葉忌 柳 紅生
 白魚や呑み込み悪しき性なれば 柳 紅生
- 【佳作】 犬ふぐり犬のおしっこ容赦なく 柳澤京子
 恋猫や吾に恋せし夫怒り 柳澤京子
 春の泥車疾走あゝしんど 柳澤京子

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 角ありておでんこんにやく角立たず
漂流す御霊の声や春一番
復興の陽の遠かりし震災忌 | 山下正純
山下正純
山下正純 |
| 【佳作】 | いつまでも佐保姫足踏してみたり
段畑の空へ菜の花上り詰め
次々と閉店となり木瓜の花 | 山本けい子
山本けい子
山本けい子 |
| | クリスタルの桜もありぬ港町 | 山本 賜 |
| 【佳作】 | 噛みしめてこんな味だったホタルイカ | 山本 賜 |
| | 振仮名をつけねば呼べず入学児
歩数計遊歩を刻み春うらら | 横山喜三郎
横山喜三郎 |
| 【佳作】 | 血を分けし子より律儀に燕くる | 横山喜三郎 |
| | 配膳車廊を馳けつこ春あらし
桜咲く徒居に日々を過せども | 渡辺さだを
渡辺さだを |
| 【佳作】 | 四月馬鹿あかんと云つつ医者通ひ | 渡辺さだを |